



東京YMCA

2010 6/7月号

発行所 東京キリスト教青年会 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

創立130周年記念感謝礼拝



2010年5月29日 銀座教会

会員大会開催

会員部・新運営委員長に 笈川光郎氏



東京YMCA会員部は5月29日、東陽町センターで「第8回会員大会」を開催した。(関連記事5面)
今年度、会員部運営委員長・小原武夫氏の任期満了に伴う退任により、新運営委員長に笈川光郎氏
写真IIが推薦され、理事会で承認された。運営委員は笈川新運営委員長に19人の委員のほか、担当タ
タッフで構成され、会員活動をさらに発展できるように取り組んでいく。

5・29

心あわせて 新たな一歩を共に踏み出す

1880年に日本で最初のYMCAとして東京YMCAは創立された。本年は130周年となり、5月29日、日本基督教団銀座教会で130周年記念感謝礼拝と式典を行った。当日は150人の会員、関係者が集い、銀座教会のご好意により、東京YMCA発会の地に近い場所での礼拝をまもることができた。

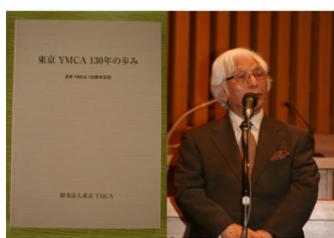


山本俊正牧師

本俊正牧師が行った。山本牧師は「イエスの呼びかけにこたえよう」と題して、ルカ福音書の「人間をたもてる漁師」の箇所を用いて、YMCAの歴史は神様への応答の歴史ではなかったかと話された。
また、YMCA運動につながるものとしてメソジスト運動にも触れた。英国のジョン・ウエズレーが形式的な信仰から心溢れる信仰に促され、疲弊した青年や社会への積極的な関わりを行ったことも実践的な神への応答であった。
それは経験則から離れ、御言葉とミッションに聴き、価値の転換を図ること



また、YMCA運動につながるものとしてメソジスト運動にも触れた。英国のジョン・ウエズレーが形式的な信仰から心溢れる信仰に促され、疲弊した青年や社会への積極的な関わりを行ったことも実践的な神への応答であった。
それは経験則から離れ、御言葉とミッションに聴き、価値の転換を図ること



齊藤實氏と「東京YMCA 130年の歩み」

最後に廣田光司総主事より閉会挨拶があり、職員・戸坂昇子氏のバイオリン伴奏により「YMCAの歌」を一同斉唱し、熱き祈りを胸に留め、会を終えた。(副総主事 本田真也)

「若人の熱き祈りは、百年の歴史をつづる...とこしえの希望に燃えて」
栄ありYMCA
われらまた祈りて起たん」
〔YMCAの歌〕
淵田多穂理

すべての人を一つにしてください

創立者たちの願いを受け継ぐ

「日本を背に負って立つYMCAの機関紙『資料』が、130年の長きにわたる継承された運動・団体の青少年団体に限らず多くはないかと思ひます。明治13年(1880年)に生まれた東京YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。」
「日本を背に負って立つYMCAの機関紙『資料』が、130年の長きにわたる継承された運動・団体の青少年団体に限らず多くはないかと思ひます。明治13年(1880年)に生まれた東京YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。」
「日本を背に負って立つYMCAの機関紙『資料』が、130年の長きにわたる継承された運動・団体の青少年団体に限らず多くはないかと思ひます。明治13年(1880年)に生まれた東京YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。」

赤三角

「ふくし」とは「ふだんの暮らし」の「幸せ」だと聞いたことがありますが、それが決して特別なことではなく、誰もが福祉の対象者になるという意味もあるのだらう。▼東京YMCAはその130年に及ぶ歴史の中で、福祉をこころから意識してきたわけではない。しかし、日本のキリスト者の中には信仰に基づいて明治・大正期から社会事業を始めた人やグループもあった。第一次大戦の戦中戦後という時代を反映して、対象は貧困にあえぐ人々、難病に苦しむ人々、障がい者、孤児などであった。現在では大きな施設や団体となって地域に不可欠なソーシャルワークを行っているところも多い。▼先日、保育職員の研修会で、130年史を編纂した元副総主事の齊藤實さんから、YMCAが児童福祉とどう関わってきたかを伺うことができた。それは戦後少したってからは、現在の江東幼稚園は「育心保育園」という名で始まり、齊藤さんが園長の職を担っていたという。1951年というから60年近く前のことである。▼弱者救済が福祉の中心だった時代から、ふだんの暮らしそのものが困難なく進むことに目標を置くのが現代の福祉である。今や私たちは保育や高齢者福祉などの分野で多くの事業を展開している。意識はしていなかったが、その萌芽はすでに60年前にあったのだと思ふ。(東雲児童館 佐藤 健)

2010年度 会員部重点計画

「東京YMCAの使命」を実現することが、地球市民的な秩序づくりであると考え、東京YMCAに集う自立した人々が「世界を見つめ、地域に生きる」(Think Globally, Act Locally) 思考を持って協働し、その実現のための様々な活動を展開する。また、その推進に必要な会員を増強し、賛助会事務局とも連携を取りながら、効果的な支援体制の確立を図っていく。

1. 社会のニーズに応える活動の開発と展開

地球規模で多様化・複雑化しつつある社会の中で、様々な困難な状況にある人々と共に歩むため、課題を見出し、解決するための活動を研究・展開する。

 - ①プログラム推進チームによる活動の開発と継続
 - ②各コミュニティセンターでの取り組みのモデルケースづくりと旗振り
2. ボランティアの育成とネットワークの拡充
 - ①東京YMCAの活動紹介グッズ・ボランティア手引書(案内)の作成
 - ②広報媒体を積極的に活用し、ネットワークの拡充を図る。
 - ・HPの積極的な利用、メール・マガジンの効果的利用
 - ③国際部と協働し、海外派遣・受入プログラムに積極的に参加する。
3. コミュニティ活動の展開
 - ①地域の諸団体との協力の中で展開されている活動をバックアップする。
 - ②行政・企業との連携を深め、協働の可能性を追求する。
4. 交わりの場の拡大
 - ①東京YMCAに集っている人々に対し、プログラム参加の機会を提供すると共に、意識高揚の場を設定する。
 - ・会員大会、夏まつりの開催
 - ・現状に適う形でチャリティーランを開催する。
 - ②会員・スタッフが共通理解を持つための協議会を開催する。
 - ・第4回ソシアス・フォーラムの開催
5. 会員組織の基盤の確立
 - ①会員活動を拡充するために、会員の増強を図る。
 - ・会員拡大キャンペーンの実施
 - ・プログラム参加者からの掘り起こし作業を行う。
 - ②様々な活動を推進していくために会費以外に寄付の募集を行う。

賛助会年会・アドバイザー会 永年継続12 法人を表彰

「賛助会年会・アドバイザー会」を7月15日に東陽町センターで開催し、賛助会員、アドバイザーなど34人が出席された。

第1部、茅野徹郎理事長の開会挨拶に続き、橋本徹賛助会会長(前ドイツ証券株式会社取締役会長)が挨拶され、『多文化多元主義化が進む中で、経済格差・環境保護・人権・医療・福祉などの課題に直面しているが、改めてグローバルな視野をもって、共に生きる

社会的実現のために、絶え間ない変革と刷新が求められていることを痛感せざるを得ない」と話された。

次に、廣田光司総主事から東京YMCAの事業全般についての報告があり、引き続き、永年継続法人12社への表彰を行った。

第2部は勝田正佳常議員会議長による食前感謝、河本晶介理事の乾杯で午餐のひと時が始められた。

途中、職員・村上祐介氏(会員事務局)による「北

米の寄付文化へのアプローチ」という報告がなされ、北米における一般企業及びYMCAでの寄付文化への試みを映像とデータを併用しながら紹介した。

終了後にフレンドシップファンドへの募金をお願いしたところ、出席者から2万1000円のご厚意が寄せられた。

皆様には、今後も青少年育成をはじめ、地域活動や国際協力事業など、東京YMCAの様々な働きへのご理解・ご賛同を心からお願

いしたい。(賛助会事務局 南宮成一)

インターナショナルチャリティーラン 9月23日(木・祝)

24th TOKYO YMCA International Charity Run
チャリティーラン同時開催プログラム

ファミリーラン 60分
トラックを走ろう!

参加者大募集!

一流アスリートも使う陸上競技場ファミリーランで走ってお楽しみ

日時: 2010年9月23日(祝・木)10時30分~
会場: 代々木公園 陸上競技場 JR原宿駅徒歩10分
募集: ①親子ラン(幼児) 親子1組(幼児のみ)200mランにチャレンジ!
②こどもラン(小学生) 公式トラック1周400mを走ってみよう!
③チャレンジコーナー(幼児・小学生) ファミリーランに挑戦しよう!
(予定)

参加費: 無料
お問合せ: 東京YMCAチャリティーラン事務局 TEL 03-3615-5568

走ることが、ボランティアに

詳細は4面参照

9/4(土) 渋谷駅前

国際協力街頭募金 ボランティア募集

自分の声が、誰かの希望になる。

こんな国際協力も、ある

2010年9月4日(土)10時~17時
JR 渋谷駅前

※直接、南口の街頭募金本部にお越し下さい。
※YMCAの募集やボランティア活動、手2も他社を募集。スタッフが一緒に案内し、募集の呼びかけを行います。YMCAの国際的な働きに熱い思いを持って、ぜひお手伝い下さい。
ご都合の良い時間帯にご参加下さい
ご家族やお友達と一緒にご参加いただけます。

〒150-0016 東京都渋谷区東横田2-2-20
東京YMCA国際協力部 募集 事務局 国際
TEL 03-3615-5562 FAX 03-3615-5568
http://tokyo.ymca.or.jp/
kokusai@tokyo.ymca.or.jp

東京YMCA

参加ボランティア募集中

国際協力一斉街頭募金

東京YMCAでは、毎年9月に渋谷駅前周辺で、『国際協力一斉街頭募金』を行っています。会員や学生、ボランティアリーダー、YMCAのプログラムに通う子どもたち、ワイズメンズクラブのメンバー、スタッフなどが協力して募金を呼びかけます。どなたでもご参加できます。

(国際協力部)

東家170周年 北米キャンプ125周年



今年1885年にS づき、子どもたちの心とダッドレーが北米のY 体と精神の成長を目的とMCAで初めてキャンプしたキャンプを行った。

行って125周年になる。1885年はニューヨークフロストバレーYM ーク・ブルックリンのYCAでも記念のキャンプMCAに世界で始めてのファイヤーを7月14日に室内温水プールができた行なった。

キャンプが始まった19カ年のYMCAの標語に「Muscular Christian」(筋力のクリストヤンプをする場といえは教)という言葉がある。戦場であり、世間では戦土曜日はYMCAのジム場に行く少年たちのトレやプールに行つて体を鍛え、また戦争で傷ついたを学び精神と肉を鍛え、少年たちの更生の場として キャンプだけでなく、味の強かった。 キャンプ全般において、味合いが強かった。 体育の分野全般において、しかしYMCAは敢えもYMCAが先駆的な役割を果たしていた時代で、キリスト教精神に基

彼は宣教師の息子であり、両親の日本宣教に同行した経験もある。当時、物事を真剣に考える場であったり、中身の濃い体験の場である。全ての人間にとって良いもの、純真で楽しいものが

「The camp is not an experiment but is founded upon earnest prayer, careful thought and long experience. Everything that is good, pure and jolly is indulged in.”

(在フロストバレー 松本教実)

午餐会双書

少子高齢化と医師不足
東京大学名誉教授 鴨下重彦氏
老いの旅路
社会福祉法人新生会理事 鈴木育三氏
賛助会事務局 03-3615-5568

午餐会双書

グローバル社会とYMCA
前日本YMCA同盟総主事 山田公平氏
グローバル公共哲学の地平
東京大学教養学部教授 山脇直司氏
賛助会事務局 03-3615-5568

午餐会双書

それでも私はほんごの木を植える
青山学院大学名誉教授 小原 信氏
北東アジアの平和と日韓
立教大学教授 李 鐘元氏
賛助会事務局 03-3615-5568

第8回会員大会

地域に求められるプログラムへ期待、会員同士の交流も

地域支援・青少年育成のために

広がる会員部の働き

5月29日、東陽町センターで「第8回会員大会」を開催し、143人の会員が出席した。第1部は村杉克己運営委員の司会を進められ、はじめに2009年度の東京YMCAの主な活動について廣田光司総主事から報告があった。会員部活動では、小原武夫運営委員長から、09年度全般報告と10年度会員部重点計画についての説明があった。

各コミュニティからは、チーム担当員が1年間の活動について報告、地域支援、青少年育成の



2009年度名譽会員

- 森井利夫
- Volunteer of the year
- 青鹿 博明 太田 太
- Youth volunteer of the year
- 大高 愛(山手コミュニティセンター)
- 黒澤 利恵(江東コミュニティセンター)
- 佐藤 康太(西東京コミュニティセンター)
- 櫻井 遼太(野外教育センター)
- 澤村 奈緒(東陽町コミュニティセンター)
- 中島 瑞穂(南コミュニティセンター)

ンティアーダーが表彰され、Aの会員として50年以上経たれ、「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」は、会員の青鹿博明氏(山手コミュニティ活動委員)と太田太氏(西東京コミュニティ活動委員)の二人が受賞された。青鹿氏は東京YMCAの活動に多方面でご奉仕され、最近では西東京コミュニティセンターの「音訳ボランティア」の講師として活躍されている。次に今年登録のユースボランティアリーダーへ、常務委員長の勝田正佳氏から委嘱状が手渡された。また勤続25年職員として、



Youth volunteer of the year

宮崎純氏(オリブ保育園事務長)が表彰された。第2部は開場をウエルビーに移し、懇親会が持たれ、会員とスタッフが交流の時を過ごした。また、運営委員として会員活動に貢献され、09年度任期満了となった退任委員へ記念品が贈られた。会員大会も今年度で8回目を数えるが、これまでに、委員長・運営委員をはじめ多くの会員が、様々な形でYMCA活動に継続して奉仕されていることに感謝したい。会員部は会員大会をスタートに2010年度を歩みはじめた。地域にあって、さらに望まれる活動を進めていくことが期待されている。(広報室)

多様なジャンル 作品59点並ぶ

5月23日・28日、東陽町センターで会員週間「芸術祭」を開催。

芸術祭には会員をはじめ、ワイズメンクラブや創作教室(江東コミュニティセンター)、libbyなど53人、59点の作品が展示された。水彩画、写真、彫刻、陶芸など多様なジャンルの作品に、訪れた170人余の方々も熱心に見入っていた。

開催初日にはオープンングセレモニーが行われ、絵

- 10年度会員部運営委員
- 委員長 箕川 光郎
- 委員 伊藤 幾夫
- 越智 京子 柿沼 敬喜
- 上谷 謙喜 神谷 幸男
- 小松 重雄 佐藤 茂美
- 佐野 守 高嶋美知子
- 高橋 伸 田中 博之
- 東條めぐみ 中塚 辰生
- 中村 周三 布上征一郎
- 長谷川あや子
- 張替 滋夫 前田 直孝
- 時田 敏雄

インターナショナルスクールTYIS

米国大学生がアカペラコンサート 子どもたちの笑顔はじける

5月18日、インターナショナルスクール・TYIS(米国コネチカット州)のアカペラグループ『Redhot and blue of Yale University』の学生17人によるアカペラコンサートを東陽町センターで行い、子どもたちや保護者、キッズガーデンの園児、職員など約120人が参加、約1時間のミニコンサートを楽しんだ。



子どもたちは4月にTYISのスプリングコンサートでマイケルジャクソンの歌とダンスを覚え、披露したばかり。アカペラでマイケルジャクソンの曲が始まると大興奮で、体を揺らしながら一緒に歌ったり、子どもたちの笑顔はじけた。

交流コーナーでは、次々と手を挙げ、『Where do you practice?』(どこで練習しているの?) 『It is a first time to visit Japan!』(日本に来るのは初めてのの?) など積極的に質問の嵐。子どもたちにとって、アカペラを聞くのはもちろん、アメリカの大学生

と直接話す良い機会になった。このような外部との交流やTYISが行っているコンサート・イベントなどを多くの方々に知ってもら

愛と平和のチャリティーコンサート

国際協力募金 明治安田生命と共催

5月21日、明治安田生命「MY PLAZA」ホールで、明治安田生命保険相互会社と東京YMCAの共催による「愛と平和のチャリティーコンサート2010」が行われた。今回は日本フィルハーモニー交響楽



今年も会場で国際協力募金を呼びかけ、寄せられた17万6274円は全て東京YMCA国際協力募金に寄付いただいた。

廣田光司総主事は、「ご寄付はバンクラデッシュの子どもたちの教育支援や北京の小学校の学習用品支援、自然災害による被災地の復興支援等に大切に使用させていただきます」と感謝を込めて語った。

また会場入口では、YMCAの国際協力活動の様子をおさめた写真などを展示して、活動への理解と協力をアピールすることができた。2001年から続いているこのコンサートが、企業とのパートナーシップによって実現し、より幅広い層の人々にYMCAの国際協力活動への理解をいただくチャンスであることに感謝したい。(国際協力部 菅谷淳)

2009年度国際協力募金は、次の用途に用いられました

お預かりした募金 合計 4,597,266円

- 国際協力募金一般 3,505,052円
 - ・バングラデシュの中等教育へ進学する子どもたちへの奨学金
 - ・バングラデシュYMCA同盟へ発電機等を寄贈
 - ・北京上鎮小学校の子どもたちへスポーツ用品、学習用品をプレゼント
 - ・東京YMCAとソウルYMCAの小学生サッカー交流プログラム開催
 - ・海外プログラムへの青少年派遣 (YMCA地球市民プロジェクト/インドネシア・ジョグジャカルタワークキャンプ/パレスチナ・オリブ収穫プログラム/English Communication Project キャンプ)
 - ・在日外国籍の方のための生活情報キット作成
 - ・ボランティアによる日本語教室の活動支援
 - ・ウクライナYMCA、ハワイ島YMCAの子どもたちとの交流プログラム (手作りのクリスマスカードとプレゼントの交換)
 - ・バングラデシュサイクロン「アイラ」被災地復興活動支援
 - ・国際理解を深める教材等の購入、広報ツール作成
 - ・日本YMCA同盟を通して実施される青少年育成や難民支援等のプロジェクト支援
- アジア・太平洋地域被災地支援募金 263,312円 (台湾台風8号、フィリピン台風16号、ベトナム台風16号、インドネシアスマトラ地震、サモア地震)
- ハイチ地震被災地支援募金 828,902円

面教室を主宰している会員・運営・受付等、多くの会の菅谷功氏による講評や出演者やワイズメンクラブの展示された方々との交流の時もお支えいただき感謝である。(広報室)

今年も開催に当たり出席

Yの持ち味再確認 坂口順治氏が講演

東日本理事・常議員研修

第13回東日本地区YMCA理事・常議員・総主事研修

本会元常議員・名誉会

主題講演は坂口順治氏

研修が4月24日、東陽町センターで10YMCAより70人の参加をもって行われた。東京YMCAからは16人が参加した。

主題講演は坂口順治氏

研修が4月24日、東陽町センターで10YMCAより70人の参加をもって行われた。東京YMCAからは16人が参加した。

主題講演は坂口順治氏

研修が4月24日、東陽町センターで10YMCAより70人の参加をもって行われた。東京YMCAからは16人が参加した。

『Yわい歌の広場』で 楽しく歌おう、楽しく話そう

新緑の5月13日、東陽町センターで、地域のお年よりが集う歌の会『Yわい歌の広場』がスタートした。

毎年2月に開催している『陽春の集い』の一つのプログラムであったが、東陽町コミュニティチームで検討をすす

新緑の5月13日、東陽町センターで、地域のお年よりが集う歌の会『Yわい歌の広場』がスタートした。

毎年2月に開催している『陽春の集い』の一つのプログラムであったが、東陽町コミュニティチームで検討をすす

今年も会場で国際協力募金を呼びかけ、寄せられた17万6274円は全て東京YMCA国際協力募金に寄付いただいた。

廣田光司総主事は、「ご寄付はバンクラデッシュの子どもたちの教育支援や北京の小学校の学習用品支援、自然災害による被災地の復興支援等に大切に使用させていただきます」と感謝を込めて語った。

また会場入口では、YMCAの国際協力活動の様子をおさめた写真などを展示して、活動への理解と協力をアピールすることができた。2001年から続いているこのコンサートが、企業とのパートナーシップによって実現し、より幅広い層の人々にYMCAの国際協力活動への理解をいただくチャンスであることに感謝したい。(国際協力部 菅谷淳)